

**問9 次の「障害のある人の人権」に関することがらについて、あなたのお考えを教えてください。**  
**(それぞれ一つに○をつけてください)**

問9は、「障害のある人の人権」に関する考え方について問うたものです。

表9-1によると、「1 身近に住む障害のある人が虐待を受けている疑いがあると感じたら、通報することが望ましい」、「4 障害のある人が地域で暮らせるようにサポートすることが望ましい」、「6 障害のある人をじろじろとみたり、避けたりすることは望ましくない」という考えについては、「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」を合わせた YES が90%を超えています。「2 障害のある人にはかかわりたくない」、「3 近所に障害者施設が建つのはいやだ」の考えでは、「どちらかと言えばそう思わない」、「そうは思わない」を合わせて NO が80%を超えています。YES が10%を超えています。「5 出生前診断は「命の選別（出生前診断）」につながるから避けるべきだ」は、NO が70%弱を占めています。そして、「7 普段の生活の中で、合理的配慮が進められていると感じる」という考えでは、YES が約60%となっています。

表9-1の右端の数値は、各項目の平均値を求めたものです。各項目の平均値を求めるために、人権意識の高いほど点数が高くなるように操作します。「1 身近に住む障害のある人が虐待を受けている疑いがあると感じたら、通報することが望ましい」、「4 障害のある人が地域で暮らせるようにサポートすることが望ましい」、「5 出生前診断は「命の選別（出生前診断）」につながるから避けるべきだ」、「6 障害のある人をじろじろみたり、避けたりすることは望ましくない」については、「そう思う」4、「どちらかと言えばそう思う」3、「どちらかと言えばそうは思わない」2、「そうは思わない」1とします。「2 障害のある人にはかかわりたくない」、「3 近所に障害者施設が建つのはいやだ」、「7 普段の生活の中で、合理的配慮が進められていると感じる」については、「そう思う」1、「どちらかと言えばそう思う」2、「どちらかと言えばそうは思わない」3、「そうは思わない」4とします。これらの項目の末尾に（逆）を付します。

表9-1の平均値をみると、「5 出生前診断は「命の選別（出生前診断）」につながるから避けるべきだ」の数値が最も低くなっています。ただ、出生前診断の是非については、この項目に YES と回答すれば人権意識が高く、NO と回答すれば人権意識が低いとは決めることができない現状にあることは確かです。

表 9-1

	合計	そう思う	どちらかと言え ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そうは思わない	無回答	平均値
1 身近に住む障害のある人が虐待を受けている疑いがあると感じたら 通報することが望ましい	1420	66.4%	29.6%	2.3	0.8%	0.9%	3.6%
2 障害のある人にはかかわりたくない・逆	1420	1.3%	11.4%	38.7%	47.5%	1.1%	3.3%
3 近所に障害者施設が建つのはいやだ・逆	1420	2.7%	12.1%	36.7%	47.3%	1.2%	3.3%
4 障害のある人が地域で暮らせるようにサポートすることが望ましい	1420	50.1%	43.4%	3.1%	2.3%	1.2%	3.4%
5 出生前診断は「命の選別(出生前診断)」につながるから避けるべきだ	1420	8.3%	20.8%	40.4%	27.7%	2.8%	2.1%
6 障害のある人をじろじろとみたり、避けたりすることは望ましくない	1420	61.6%	31.2%	3.9%	2.3%	1.1%	3.5%
7 普段の生活の中で、合理的配慮が進められていると感じる・逆	1420	12.5%	44.9%	31.1%	9.4%	2.0%	2.4%

表 9-2-1 は、性別と「障害のある人の人権」についての考え方との関連をみたものです。

表 9-2-2 は、表 9-2-1 において、統計的有意差が認められた項目について平均値を求めたものです。

表 9-2-1

		合計	そう 思う	ど ち ら か と 言 え ば そ う	ど ち ら か と 思 わ な い	ど ち ら か と 言 え ば そ う	な い	そ う は 思 わ な い	統計的 検定
1 身近に住む障害のある人が虐待を受けている疑いがあると感じたら 通報することが望ましい	男性	625	66.6%	29.4%	2.6%	1.4%	p=.154		
	女性	756	67.1%	30.6%	2.0%	0.4%			
	性別未選択者	12	83.3%	8.3%	8.3%	0.0%			
	合計	1393	67.0%	29.9%	2.3%	0.9%			
2 障害のある人にはかかわりたくない	男性	627	1.6%	14.4%	41.3%	42.7%	p=.001**		
	女性	751	0.9%	9.2%	37.4%	52.5%			
	性別未選択者	12	8.3%	8.3%	33.3%	50.0%			
	合計	1390	1.3%	11.5%	39.1%	48.1%			

表 9-2-1 つづき

		合計	そう思う	思う 言えばそう	どちらかと 思わない	どちらかと 言えばそう	そうは思わ ない	統計的検定
3 近所に障害者施設が建つのはいやだ	男性	626	2.4%	13.7%	37.5%	46.3%	p=. 622	
	女性	751	3.1%	11.2%	36.2%	49.5%		
	性別未選択者	12	0.0%	8.3%	50.0%	41.7%		
	合計	1389	2.7%	12.3%	36.9%	48.0%		
4 障害のある人が地域で暮らせるようにサポートすることが望ましい	男性	625	48.0%	45.3%	3.5%	3.2%	p=. 270	
	女性	752	52.5%	43.0%	2.9%	1.6%		
	性別未選択者	12	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%		
	合計	1389	50.6%	43.9%	3.2%	2.3%		
5 出生前診断は「命の選別（出生前診断）」につながるから避けるべきだ	男性	615	9.8%	20.0%	40.5%	29.8%	p=. 708	
	女性	740	7.6%	22.3%	42.3%	27.8%		
	性別未選択者	12	8.3%	25.0%	33.3%	33.3%		
	合計	1367	8.6%	21.3%	41.4%	28.7%		
6 障害のある人をじろじろとみたり、避けたりすることは望ましくない	男性	625	57.0%	35.5%	5.0%	2.6%	p=. 001**	
	女性	754	66.6%	28.6%	2.8%	2.0%		
	性別未選択者	12	75.0%	8.3%	16.7%	0.0%		
	合計	1391	62.3%	31.6%	3.9%	2.2%		
7 普段の生活の中で、合理的配慮が進められていると感じる	男性	622	14.0%	44.1%	31.4%	10.6%	p=. 540	
	女性	743	12.1%	47.4%	32.0%	8.5%		
	性別未選択者	12	8.3%	33.3%	41.7%	16.7%		
	合計	1377	12.9%	45.8%	31.8%	9.5%		

表 9-2-2

F1 性別	2 障害のある人にはかかわりたくない・逆	6 障害のある人をじろじろとみたり、避けたりすることは望ましくない
男性	3.3	3.5
女性	3.4	3.6
性別未選択者	3.3	3.6
合計	3.3	3.5

表 9-2-1 と表 9-2-2 より、次のように解釈されます。

すなわち、「2 障害のある人にはかかわりたくない・逆」では、女性が男性および性別未選択者よりも平均値が高く、「6 障害のある人をじろじろとみたり、避けたりすることは望ましくない」では、女性と性別未選択者において男性よりも平均値が高いことがわかります。

障害のある人の人権について、いずれの性の人権意識が高いかということは一概には結論づけることはできません。

表 9-3-1 は、年齢と障害のある人の人権についての考え方とのクロス集計において、「5 出生前診断は「命の選別（出生前診断）」につながるから避けるべきだ」と「6 障害のある人をじろじろとみたり、避けたりすることは望ましくない」の 2 項目は、統計的有意差が認められます。

表 9-3-2 は、統計的有意差の認められた 2 項目について平均値を示しています。

表 9-3-1

		合計	そう思う	思う	どちらかと言えそう	どちらかと思わない	言えそう	どちらかと言えない	そうは思わない	統計的検定
5 出生前診断は「命の選別 (出生前診断)」につながるから避けるべきだ	10 歳代	126	4.8%	21.4%	38.9%	34.9%				P<.001***
	20 歳代	170	4.7%	18.2%	41.2%	35.9%				
	30 歳代	177	5.6%	11.3%	42.4%	40.7%				
	40 歳代	193	6.2%	15.5%	44.0%	34.2%				
	50 歳代	213	6.1%	24.4%	46.5%	23.0%				
	60 歳代	260	10.8%	25.4%	41.2%	22.7%				
	70 歳代以上	221	17.6%	29.0%	34.4%	19.0%				
	合計	1360	8.5%	21.3%	41.3%	28.9%				
6 障害のある人をじろじろとみたり、避けたりすることは望ましくない	10 歳代	126	61.9%	27.8%	7.1%	3.2%				p<.001***
	20 歳代	173	54.9%	37.6%	5.8%	1.7%				
	30 歳代	177	52.0%	37.9%	5.1%	5.1%				
	40 歳代	195	63.6%	29.2%	5.1%	2.1%				
	50 歳代	217	55.8%	40.1%	3.2%	0.9%				
	60 歳代	264	68.2%	28.0%	1.5%	2.3%				
	70 歳代以上	232	74.6%	22.4%	1.7%	1.3%				
	合計	1384	62.4%	31.6%	3.8%	2.2%				

表 9-3-2

F2 年齢	5 出生前診断は「命の選別 (出生前診断)」につながるから避けるべきだ	6 障害のある人をじろじろとみたり、避けたりすることは望ましくない
10 歳代	2.0	3.5
20 歳代	1.9	3.5
30 歳代	1.8	3.4
40 歳代	1.9	3.5
50 歳代	2.1	3.5
60 歳代	2.2	3.6
70 歳代以上	2.5	3.7
合計	2.1	3.5

「5 出生前診断は「命の選別 (出生前診断)」につながるから避けるべきだ」、については、50 歳未満の年齢の平均値が低くなっています。「6 障害のある人をじろじろとみたり、避けたりすることは望ましくない」については、60 歳代、70 歳代において平均値が高くなっています。

これらの結果のみで、年齢と障害のある人の人権についての関連について、結論づけることは困難です。

表 9-4-1 は、職種と「障害のある人の人権」についての考え方で統計的有意差が認められた

項目のみ表示しています。

表 9-4-2 は、表 9-4-1 において統計的有意差が認められた項目について、平均値を求めたものです。

表 9-4-1

		合計	そう思う そう思う	思 言え どちら か と	言え ば そ う ど ち ら か と	思 わ な い そ う は 思 わ な い	統計的 検定
2 障害のある人には かかわりたくない	自営業	72	1.4%	8.3%	37.5%	52.8%	p=.015*
	自由業	14	7.1%	21.4%	28.6%	42.9%	
	公務員・教員	61	1.6%	9.8%	26.2%	62.3%	
	経営者・役員	35	0.0%	5.7%	45.7%	48.6%	
	正規職員	321	1.2%	15.6%	46.1%	37.1%	
	非正規職員	283	0.4%	9.9%	41.3%	48.4%	
	学生	165	1.8%	10.3%	36.4%	51.5%	
	無職	419	1.4%	11.0%	35.8%	51.8%	
合計	1370	1.2%	11.5%	39.3%	48.0%		
4 障害のある人が地 域で暮らせるように サポートすることが 望ましい	自営業	72	44.4%	50.0%	2.8%	2.8%	p=.006**
	自由業	14	64.3%	28.6%	7.1%	0.0%	
	公務員・教員	61	60.7%	34.4%	4.9%	0.0%	
	経営者・役員	35	65.7%	28.6%	2.9%	2.9%	
	正規職員	319	42.6%	52.7%	2.8%	1.9%	
	非正規職員	283	48.4%	48.1%	1.4%	2.1%	
	学生	165	59.4%	37.6%	1.2%	1.8%	
	無職	421	52.3%	39.4%	5.2%	3.1%	
合計	1370	50.5%	44.0%	3.2%	2.3%		
5 出生前診断は「命 の選別(出生前診断) につながるから避け るべきだ	自営業	68	8.8%	20.6%	36.8%	33.8%	p<.001***
	自由業	14	0.0%	21.4%	50.0%	28.6%	
	公務員・教員	61	1.6%	24.6%	41.0%	32.8%	
	経営者・役員	35	5.7%	5.7%	62.9%	25.7%	
	正規職員	319	4.7%	16.6%	43.3%	35.4%	
	非正規職員	278	12.6%	21.6%	45.7%	20.1%	
	学生	165	3.6%	21.8%	36.4%	38.2%	
	無職	410	11.5%	26.1%	38.0%	24.4%	
合計	1350	8.3%	21.5%	41.5%	28.7%		
6 障害のある人をじ ろじろとみたり、避け たりすることは望ま しくない	自営業	72	63.9%	31.9%	1.4%	2.8%	p<.001***
	自由業	14	50.0%	42.9%	7.1%	0.0%	
	公務員・教員	61	50.8%	45.9%	1.6%	1.6%	
	経営者・役員	35	62.9%	25.7%	2.9%	8.6%	
	正規職員	320	53.1%	40.0%	5.0%	1.9%	
	非正規職員	282	59.6%	34.0%	5.0%	1.4%	
	学生	165	61.8%	26.7%	7.3%	4.2%	
	無職	421	72.0%	24.5%	1.9%	1.7%	
合計	1370	62.0%	31.9%	3.9%	2.2%		
7 普段の生活の中 で、合理的配慮が進め られていると感じる	自営業	70	15.7%	44.3%	31.4%	8.6%	p=.012*
	自由業	14	7.1%	28.6%	64.3%	0.0%	
	公務員・教員	61	16.4%	50.8%	31.1%	1.6%	
	経営者・役員	35	11.4%	42.9%	42.9%	2.9%	
	正規職員	319	14.1%	42.0%	33.5%	10.3%	
	非正規職員	280	7.1%	52.1%	30.4%	10.4%	
	学生	165	20.6%	40.6%	31.5%	7.3%	
	無職	414	12.3%	46.9%	30.2%	10.6%	
合計	1358	13.0%	45.8%	32.0%	9.3%		

表 9-4-2

F3 職業	2 障害のある人にはかかわりたくない・逆	4 障害のある人が地域で暮らせるようにサポートすることが望ましい	5 出生前診断は「命の選別（出生前診断）」につながるから避けるべきだ	6 障害のある人をじろじろとみたり、避けたりすることは望ましくない	7 普段の生活の中で、合理的配慮が進められていると感じる・逆
自営業	3.4	3.4	2.0	3.6	2.3
自由業	3.1	3.6	1.9	3.4	2.6
公務員・教員	3.5	3.6	2.0	3.5	2.2
経営者・役員	3.4	3.6	1.9	3.4	2.4
正規職員	3.2	3.4	1.9	3.4	2.4
非正規職員	3.4	3.4	2.3	3.5	2.4
学生	3.4	3.6	1.9	3.5	2.3
無職	3.4	3.4	2.3	3.7	2.4
合計	3.3	3.4	2.1	3.5	2.4

表 9-4-1 と表 9-4-2 によると、公務員・教員について、総じて、平均値が高く、人権意識が高いように読めますが、「7 普段の生活の中で、合理的配慮が進められていると感じる・逆」では点数が低く、公務員において、合理的配慮が進められていないと感じている要因や背景については気になるところです。

項目によって、特定の職業の人びとの点数が高かったり、低かったりしており、障害のある人の人権について、職種による違いがあると言えるかどうか、一概に解釈することは難しいところです。

なお、地域差はいずれの項目においても認められませんでした。